

山下（真）委員（民主県政会）

平成30年3月8日

教育長答弁実録

（教育委員会）

（問）総合技術高校の生徒が自死した事件から明らかになった課題について

平成26年に総合技術高校の生徒が自死した事件において、いじめる側の認識が大きな課題であることが浮き彫りになり、何がいじめにあたるのかに気付く力を育むことの重要性が確認された。

この事件で明らかになった課題について県内全ての学校にどのように指導してきたのか、教育長に伺う。

（答）

総合技術高校の事案から明らかになった課題といたしましては、生徒に対して、いじめには直接の加害被害の関係だけでなく、はやしたてる観衆や見て見ぬふりをする傍観者もいじめの加害者であるといういじめの構造を正しく理解させる指導が十分でなかったことや、教職員のいじめに対する感度が低かったことなどが、挙げられます。

こうしたことから、すべての学校において、いじめの問題に対して、適切な対応が行われますよう、市町教育長会議や県立学校長会議並びに生徒指導主事研修や生徒指導フォーラムなど、様々な機会を通じて指導してきたところでございます。

また、いじめが部活動においても行われていたことから、広島県高等学校体育連盟及び広島県高等学校野球連盟が主体となって「魅力的な部活動指導の在り方」について研修会を開催し、県教育委員会の指導主事が講師となり、部活動におけるいじめを未然に防止するための取組について指導助言を行ったところでございます。